

## トヨタ東自大シラバス

## 修得目標と授業計画

学科名	ボデークラフト研究科		実務経験を有する教員による授業	○
科目名	FRP加工	分類	必修	選択必修 ・ 選択
履修時期	1年1学期		69	時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		時限数	学科: 5 時限 実習: 64 時限 1時限は、90分
授業内容	FRPを取り入れ学生フォーミュラーのボデー製作する加工方法を理解し、使用する用材、機器の取扱いを学ぶ			
修得目標	・FRP(繊維強化プラスチック)の特徴を理解し説明ができる ・型を使用したFRPの加工が出来るようになる。			

## 授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	FRPの概要1	FRPの特徴、	36	FRPの加工31	FRP加工30
2	FRPの概要2	FRPno環境環境問題、リサイクル方法	37	FRPの加工32	FRP加工31
3	FRPの概要3	FRPの材料構成、繊維の種類	38	FRPの加工33	FRP加工32
4	FRPの概要4	設計、加工方法について	39	FRPの加工34	FRP加工33
5	FRPの概要5	FRPの用途	40	FRPの加工35	FRP加工34
6	FRPの加工1	加工の注意点、保護具の確認	41	FRPの加工36	FRP加工35
7	FRPの加工2	FRP加工1	42	FRPの加工37	FRP加工36
8	FRPの加工3	FRP加工2	43	FRPの加工38	FRP加工37
9	FRPの加工4	FRP加工3	44	FRPの加工39	FRP加工38
10	FRPの加工5	FRP加工4	45	FRPの加工40	FRP加工39
11	FRPの加工6	FRP加工5	46	FRPの加工41	FRP加工40
12	FRPの加工7	FRP加工6	47	FRPの加工42	FRP加工41
13	FRPの加工8	FRP加工7	48	FRPの加工43	FRP加工42
14	FRPの加工9	FRP加工8	49	FRPの加工44	FRP加工43
15	FRPの加工10	FRP加工9	50	FRPの加工45	FRP加工44
16	FRPの加工11	FRP加工10	51	FRPの加工46	FRP加工45
17	FRPの加工12	FRP加工11	52	FRPの加工47	FRP加工46
18	FRPの加工13	FRP加工12	53	FRPの加工48	FRP加工47
19	FRPの加工14	FRP加工13	54	FRPの加工49	FRP加工48
20	FRPの加工15	FRP加工14	55	FRPの加工50	FRP加工49
21	FRPの加工16	FRP加工15	56	FRPの加工51	FRP加工50
22	FRPの加工17	FRP加工16	57	FRPの加工52	FRP加工51
23	FRPの加工18	FRP加工17	58	FRPの加工53	FRP加工52
24	FRPの加工19	FRP加工18	59	FRPの加工54	車両へ取り付け1
25	FRPの加工20	FRP加工19	60	FRPの加工55	車両へ取り付け2
26	FRPの加工21	FRP加工20	61	FRPの加工56	車両へ取り付け3
27	FRPの加工22	FRP加工21	62	FRPの加工57	車両へ取り付け4
28	FRPの加工23	FRP加工22	63	FRPの加工58	車両へ取り付け5
29	FRPの加工24	FRP加工23	64	FRPの加工59	車両へ取り付け6
30	FRPの加工25	FRP加工24	65	FRPの加工60	車両へ取り付け7
31	FRPの加工26	FRP加工25	66	FRPの加工61	車両へ取り付け8
32	FRPの加工27	FRP加工26	67	FRPの加工62	車両へ取り付け9
33	FRPの加工28	FRP加工27	68	FRPの加工63	車両へ取り付け10
34	FRPの加工29	FRP加工28	69	FRPの加工64	完成検査
35	FRPの加工30	FRP加工29			

授業外学習	なし
教科書	・車体整備、
教材	・ガラスマット、硬化剤、ポリエステル樹脂、ローラ、ヘラ、カッター、サンドペーパー
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 総合評価は授業レポート点50点、出席点20点、行動点30点とし、100点満点とし60点以上取らなければ、卒業できない。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	ボデークラフト研究科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	塗 装 IV	分類	必修 ・ 選択必修 ・ 選択
履修時期	1年1学期	時限数	60 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 8 時限 実習: 52 時限 1時限は、90分
授業内容	実車を使用した塗装作業を実施していくことで塗装技術の向上を図る		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装の種類により各塗装の技術を身につける</li> <li>・1人で下地処理、調色、マスキング、上塗り、磨きの作業ができるようにする。</li> <li>AIカラーシステムの取扱いを修得する。</li> </ul>		

授業計画

時限	項 目	内 容	時限	項 目	内 容
1	安全衛生	塗装作業の安全と衛生	31	実車修理4	実車修理4
2	スプレーガン知識	ガンの原理、種類、構造、運行、洗浄、不具合	32	実車修理5	実車修理5
3	塗料と塗装の基礎知識	塗装の目的、塗料の成分、乾燥のしくみ	33	実車修理6	実車修理6
4	下地処理	下地処理の目的と工程 ・下地処理の材料 ・工具、	34	実車修理7	実車修理7
5	下地処理	機器の種類 ・表面処理 ・パテ整形 ・ブラサフ塗装	35	実車修理8	実車修理8
6	塗装部位の足付け	足付けの方法(水研ぎ、空研ぎ、機械研ぎ)	36	実車修理9	実車修理9
7	下地塗装(ブラサフ)	足付けの必要性	37	実車修理10	実車修理10
8	足付け	ブラサフの足付け	38	実車修理11	実車修理11
9	上塗り(ソリッド)1	ドアアウターパネルの塗り1	39	実車修理12	実車修理12
10	上塗り(ソリッド)2	ドアアウターパネルの塗り2	↓		
11	磨き1	必要機器、方法1			
12	磨き2	必要機器、方法2			
13	調色1	調色の目的 ・調色に必要な知識 ・調色に必要な機器 ・調色工程			
14	調色2	調色作業 1			
15	調色3	調色作業 2			
16	調色4	AIカラーシステムの取扱い		80	実車修理53
17	調色5	AIカラーシステムの取扱い	81	実車修理54	実車修理54
18	調色6	AIカラーシステムの取扱い	82	実車修理55	実車修理55
19	調色7	AIカラーシステムの取扱い	83	実車修理56	実車修理56
20	上塗り1	ブロック塗り・ホカン塗装方法・ガン操作1	84	実車修理57	実車修理57
21	上塗り2	ブロック塗り・ホカン塗装方法・ガン操作2	85	実車修理58	実車修理58
22	ポカン磨き	ポカン部のミガキ方法	86	実車修理59	実車修理59
23	上塗り(メリック)1	メリックの吹き方・ソリッドとメリックの違い	87	実車修理60	実車修理60
24	上塗り(メリック)2	塗装部位の足付け、	88	実車修理61	実車修理61
25	上塗り(メリック)3	実車の塗装	89	実車修理62	実車修理62
26	上塗り(メリック)4	実車の塗装	90	実車修理63	実車修理63
27	マスキング	マスキングの目的と必要性	91	学科試験	
28	実車修理1	実車修理1	92	学科試験	
29	実車修理2	実車修理2	93	実技試験	
30	実車修理3	実車修理3	94	実技試験	

授業外学習	4時限の授業内容のレポートの作成に1～2時間のかかり、これが1日の復習となる。
教科書	ペイントテキスト、ペイントビジュアルマニュアル
教材	スプレーガン、塗装練習用パネル、ポリッシャー、計量器、その他(塗料、研磨材、マスキング材、磨き材)
成績評価の方法と基準	<p>授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。</p> <p>授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。</p> <p>試験は、学科、実技試験があり、合格点は、100点満点の60点以上を取らなければ卒業は出来ない。</p> <p>不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。</p> <p>総合評価は、平常点及び学科試験・実技試験を合計したものが評価となる、平常点50数は、レポート30点、出席10点、行動10点を点数で評価する。</p>



## トヨタ東自大シラバス

## 修得目標と授業計画

学科名	ボデークラフト研究科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	板金Ⅲ	分類	必修 選択必修 ・ 選択
履修時期	1年1学期	時限数	68 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 8 時限 実習: 60 時限 1時限は、90分
授業内容	車両の基本構造を確認し、ボデー修理の技術を向上を図る。		
修得目標	・ボデーの損傷部位により各修理が出来る。 ・ボデー修理(小ダメージ)の修理を1人で作業が出来る。		

## 授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	安全衛生・危険予知	ボディー修理作業安全の特異性・安全衛生活動	35	実車修理8	実車を使用した板金作業8
2	小ダメージ車の修理	小ダメージ車の一連作業	36	実車修理9	実車を使用した板金作業9
3	損傷範囲の確認	小ダメージ範囲の確認方法	37	実車修理10	実車を使用した板金作業10
4	ハンマリング(ハネル修正)	ハンマードリーによる修正(オン、オフドリー)	38	実車修理11	実車を使用した板金作業11
5	機器・工具取り扱い	エア・電動・油圧機器取り扱い、工具・機器の名称と点検整備	39	実車修理12	実車を使用した板金作業12
6	鋼板修正(小ダメ)1	手順《損傷範囲確認→見積・作業方法の基本→作業時間の基準》1	40	実車修理13	実車を使用した板金作業13
7	鋼板修正(小ダメ)2	手順《損傷範囲確認→見積・作業方法の基本→作業時間の基準》2	41	実車修理14	実車を使用した板金作業14
8	鋼板修正(小ダメ)3	手順《損傷範囲確認→見積・作業方法の基本→作業時間の基準》3	42	実車修理15	実車を使用した板金作業15
9	鋼板修正(小ダメ)4	手順《損傷範囲確認→見積・作業方法の基本→作業時間の基準》4	43	実車修理16	実車を使用した板金作業16
10	鋼板修正(小ダメ)5	手順《損傷範囲確認→見積・作業方法の基本→作業時間の基準》5	44	実車修理17	実車を使用した板金作業17
11	鋼板修正(小ダメ)6	手順《損傷範囲確認→見積・作業方法の基本→作業時間の基準》6	45	実車修理18	実車を使用した板金作業18
12	パテ整形	ファイル・ペーパーの使い分け・チェック方法(目視・定量的)	46	実車修理19	実車を使用した板金作業19
13	パテへの加工	新品パテへの加工方法	47	実車修理20	実車を使用した板金作業20
14	フェザーエッジ	フェザーエッジの作り方	48	実車修理21	実車を使用した板金作業21
15	パテ塗布1	パテ塗布(硬化剤あり)	49	実車修理22	実車を使用した板金作業22
16	パテ塗布2	ドア等の単純面	50	実車修理23	実車を使用した板金作業23
17	パテ塗布3	複合面の盛り方1	51	実車修理24	実車を使用した板金作業24
18	パテ塗布4	複合面の盛り方2	52	実車修理25	実車を使用した板金作業25
19	実車ダメージ修正1	損傷確認～鋼板修正1	53	実車修理26	実車を使用した板金作業26
20	実車ダメージ修正2	損傷確認～鋼板修正2	54	実車修理27	実車を使用した板金作業27
21	実車ダメージ修正3	鋼板修正	55	実車修理28	実車を使用した板金作業28
22	実車ダメージ修正4	鋼板修正～塗膜はがし	56	実車修理29	実車を使用した板金作業29
23	実車ダメージ修正5	鋼板修正～絞り	57	実車修理30	実車を使用した板金作業30
24	パテ研ぎ1	パテ研ぎファイルの種類、ペーパーの使える目安	58	実車修理31	実車を使用した板金作業31
25	パテ研ぎ2	機械研ぎ(エア・工具を使った機械研ぎ)	59	実車修理32	実車を使用した板金作業32
26	パテ研ぎ3	単純面研ぎ	60	実車修理33	実車を使用した板金作業33
27	パテ研ぎ4	複合面研ぎ	61	実車修理34	実車を使用した板金作業34
28	実車修理1	実車を使用した板金作業1	62	実車修理35	実車を使用した板金作業35
29	実車修理2	実車を使用した板金作業2	63	実車修理36	実車を使用した板金作業36
30	実車修理3	実車を使用した板金作業3	64	実車修理37	実車を使用した板金作業37
31	実車修理4	実車を使用した板金作業4	65	学科試験	学科試験
32	実車修理5	実車を使用した板金作業5	66	学科試験	学科試験
33	実車修理6	実車を使用した板金作業6	67	実技試験	実技試験
34	実車修理7	実車を使用した板金作業7	68	実技試験	実技試験

授業外学習	4時限の授業内容のレポートの作成に1～2時間のかかり、これが1日の復習となる。
教科書	・車体整備、ボデー&ペイントテキストボデー編
教材	・実車の事故車
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 試験は、学科、実技試験があり、合格点は、100点満点の60点以上を取らなければ卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、平常点及び学科試験・実技試験を合計したものが評価となる、平常点は、レポート点、出席点、行動点を点数で評価する。

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	ボデークラフト研究科	実務経験を有する教員による授業	
科目名	インターンシップ(実務実習)	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	1年2学期	時限数	120 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 0 時限 実習: 120 時限 1時限は、90分
授業内容	インターンシップにより、将来の業務内容を体験し、身に付けるスキルや目標を持つ。		
修得目標	<p>・今までに学んだ知識、技術が参加する企業で役立つか体験し、今後の授業等で何が重要であるか判断できる。</p> <p>・変わり行く日本の自動車業界で何をすべきか考察できる。</p>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	自動車整備1	各企業での実作業1	91	自動車整備91	各企業での実作業91
2	自動車整備2	各企業での実作業2	92	自動車整備92	各企業での実作業92
3	自動車整備3	各企業での実作業3	93	自動車整備93	各企業での実作業93
4	自動車整備4	各企業での実作業4	94	自動車整備94	各企業での実作業94
5	自動車整備5	各企業での実作業5	95	自動車整備95	各企業での実作業95
6	自動車整備6	各企業での実作業6	96	自動車整備96	各企業での実作業96
7	自動車整備7	各企業での実作業7	97	自動車整備97	各企業での実作業97
8	自動車整備8	各企業での実作業8	98	自動車整備98	各企業での実作業98
9	自動車整備9	各企業での実作業9	99	自動車整備99	各企業での実作業99
10	自動車整備10	各企業での実作業10	100	自動車整備100	各企業での実作業100
		↓	101	自動車整備101	各企業での実作業101
			102	自動車整備102	各企業での実作業102
			103	自動車整備103	各企業での実作業103
74	自動車整備74	各企業での実作業74	104	自動車整備104	各企業での実作業104
75	自動車整備75	各企業での実作業75	105	自動車整備105	各企業での実作業105
76	自動車整備76	各企業での実作業76	106	自動車整備106	各企業での実作業106
77	自動車整備77	各企業での実作業77	107	自動車整備107	各企業での実作業107
78	自動車整備78	各企業での実作業78	108	自動車整備108	各企業での実作業108
79	自動車整備79	各企業での実作業79	109	自動車整備109	各企業での実作業109
80	自動車整備80	各企業での実作業80	110	自動車整備110	各企業での実作業110
81	自動車整備81	各企業での実作業81	111	自動車整備111	各企業での実作業111
82	自動車整備82	各企業での実作業82	112	自動車整備112	各企業での実作業112
83	自動車整備83	各企業での実作業83	113	まとめ1	発表準備1
84	自動車整備84	各企業での実作業84	114	まとめ2	発表準備2
85	自動車整備85	各企業での実作業85	115	まとめ3	発表準備3
86	自動車整備86	各企業での実作業86	116	まとめ4	発表準備4
87	自動車整備87	各企業での実作業87	117	まとめ5	発表準備5
88	自動車整備88	各企業での実作業88	118	まとめ6	発表準備6
89	自動車整備89	各企業での実作業89	119	まとめ7	発表準備7
90	自動車整備90	各企業での実作業90	120	実技試験	実技報告会

授業外学習	インターンシップ事前説明 2時間、レポート作成4時間、報告会資料作成4時間
教科書	職場先輩用テキスト STEP1
教材	インターンシップレポート
成績評価の方法と基準	<p>授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。</p> <p>インターンシップレポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。</p> <p>総合評価はインターンシップ先評価50点、実習報告会での発表50点、計100満点の60点以上取らなければ、卒業は出来ない。</p> <p>不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある</p>

トヨタ東大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	ボデークラフト研究科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	板金Ⅳ	分類	必修 選択必修 選択
履修時期	1年2学期	時限数	34 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 3 時限 実習: 31 時限 1時限は、90分
授業内容	実車を使用したクォーターパネルの交換		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接系外板部品の取り付け方に合わせた溶接方法が出来る。</li> <li>・建付け、防錆作業が出来る。</li> <li>・保護具の役割を理解して、安全作業を身に付ける。</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	Rrダメージ修正の確認	修正機の配置、車両の確認	31	仮組み1	交換部品を仮組みして寸法だしをする
2	車両の分解	メカ工具の配布と確認、艤装品分解	32	仮組み2	艤装品を仮組みして建て付け調整をする
3	車両ダメージ入力	バックパネル正面よりクォーター後部までダメージ入力	33	溶接準備	艤装品などをとりはずして溶接準備をする
4	損傷診断	損傷確認の手順に沿って細部まで見落としの無いように確認する	34	溶接1	外板のプレスラインから順番に仮付けしていく
5	作業計画	各グループで作業計画を立てる	35	溶接2	スポット溶接(溶接部が密着していることを確認して溶接する)
6	ボデー構造	一学期の復習	36	溶接3	プラグ溶接(溶接強度が出ているか、溶接品質は確保されているか)
7	事前準備1	作業を分析しながら部品、工具など段取りできる部分を準備する1	37	溶接4	突合せ溶接(熱を一箇所に溜めないように冷却しながら溶接する)
8	事前準備2	作業を分析しながら部品、工具など段取りできる部分を準備する2	38	溶接5	寸法確認をしながら、溶接する
9	付属部品はずし	修正に関する場所の部品をとりはずす	39	溶接仕上げ	見える部分、隠れる部分など修理書でよく確認してしあげる
10	修理書の説明	修理書の見方と確認方法、寸法図の説明など	40	修正機リセット1	修正機から降ろす1
11	鋼板材料	自動車に使われる鋼板材料について	41	防錆処理	溶接部の焼け跡などしっかりと処理する
12	ラッゲージ取り付け	新品部品の取り扱い、組みつけ手順、寸法だしについて	42	艤装品組み付け1	艤装品を組み付けて建て付け調整をする(外観重視)1
13	修正機セット	修正機の取り扱いと安全について	43	まとめ	学科試験
14	整体出し	修正機とボデーの整体を出す	44	完成検査	実技試験
15	基準寸法だし	仮想基準線とベンチの基準寸法をだして測定寸法との計算を出す			
16	ボデー計測	ダメージの入り具合を寸法計測により正確に把握する			
17	アライニング1	一学期の復習			
18	アライニング2	ダメージの入力方向、大きさを考えながらアライニング作業を計画する			
19	アライニング3	各部の寸法を確認しながら、正確なアライニングをする			
20	アライニング4	残留応力と応力抜きハンマリング			
21	部品確認	取替え部品の品番確認、形状確認			
22	2次損傷防止	作業をすることによって起こる			
23	粗切り	交換部品のはがしをしやすくするために、粗切りをする			
24	鋼板修正	一学期の復習			
25	精度確認	残す側の部品を新品部品の精度に合わせるために修復する			
26	重ねきり準備	外板部の突合せ溶接実施箇所を重ねきりする為にテーピングする			
27	パネルの取り外し	交換部品をすべてはがして、穴のあいた部分などは穴埋めする。			
28	溶接準備1	ボデー側の溶接準備をする			
29	溶接準備2	交換部品側の溶接準備をする(プラグ穴あけースポットシーラー塗布)			
30	溶接準備3	ボデーシーラー塗布(ホイールアーチ部にボデーシーラーを塗布する)			

授業外学習	.4時限分の授業レポートをまとめるために、1～2時間かかりこれが1日の復習となる。	
教科書	・車体整備、ボデー&ペイントテキストボデー編	
教材	・フレーム修正機、スポット溶接機、炭酸ガスアーク溶接機、	
成績評価の方法と基準	<p>授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。</p> <p>授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。</p> <p>試験は、学科、実技試験があり、合格点は、100点満点の60点以上取らなければ、卒業は出来ない。</p> <p>不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。</p> <p>成績評価は、平常点及び学科試験・実技試験を合計したものが評価となる。平常点50数は、レポート30点、出席10点、行動10点を点数で評価する。</p>	

トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	ボデークラフト研究科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	総合整備Ⅳ	分類	必修・選択必修・選択
履修時期	1年3学期	時限数	42 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照		学科: 0 時限 実習: 42 時限 1時限は、90分
授業内容	実作業に向けた多頻度作業訓練		
修得目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部診断機の取扱いを覚える。</li> <li>・フロントガラス撥水コーティング作業(手作業)が出来るようになる</li> <li>・エンジンオイル、エレメント交換作業が出来るようになる</li> <li>・タイヤ交換、バランス調整作業が出来るようになる。</li> <li>・部品の知識、プロのエンジニアとしての基本動作、販売店での立ち居振る舞いが出来る。</li> </ul>		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	導入	授業の内容や目的、進め方の説明	31	習得状況の確認 4	擬似顧客車両2を用いて受付～作業
2	多頻度作業Ⅰ 1	洗車(外装清掃)、室内清掃(内装清掃)	32	習得状況の確認 5	擬似顧客車両2を用いて作業
3	多頻度作業Ⅰ 2	上記作業訓練の反復 1	33	習得状況の確認 6	擬似顧客車両2を用いて作業～引渡し
4	多頻度作業Ⅰ 3	上記作業訓練の反復 2	34	習得状況の確認 7	まとめ
5	多頻度作業Ⅰ 4	上記作業訓練の反復 3	35	実技試験1	実技試験1
6	多頻度作業Ⅱ 1	フロントガラス撥水コーティング	36	実技試験2	実技試験2
7	多頻度作業Ⅱ 2	上記作業訓練の反復 1	37	実技試験3	実技試験3
8	多頻度作業Ⅱ 3	上記作業訓練の反復 2	38	実技試験4	実技試験4
9	多頻度作業Ⅱ 4	上記作業訓練の反復 3	39	1年間のまとめ	1年間のまとめ
10	多頻度作業Ⅲ 1	エンジンオイル、オイルエレメント交換	40	1年間のまとめ	1年間のまとめ
11	多頻度作業Ⅲ 2	上記作業訓練の反復 1	41	1年間のまとめ	1年間のまとめ
12	多頻度作業Ⅲ 3	上記作業訓練の反復 2	42	1年間のまとめ	1年間のまとめ
13	多頻度作業Ⅲ 4	上記作業訓練の反復 3	43		
14	多頻度作業Ⅳ 1	タイヤ交換、ホイールバランス調整	44		
15	多頻度作業Ⅳ 2	上記作業訓練の反復 1	45		
16	多頻度作業Ⅳ 3	上記作業訓練の反復 2	46		
17	多頻度作業Ⅳ 4	上記作業訓練の反復 3	47		
18	消耗部品の知識 1	エンジンオイル、オイルフィルター	48		
19	消耗部品の知識 2	タイヤ、バッテリー	49		
20	消耗部品の知識 3	エアコンフィルター、ワイパーゴム	50		
21	外部診断機1	外部診断機の取扱い1	51		
22	外部診断機2	外部診断機の取扱い2	52		
23	外部診断機3	外部診断機の取扱い3	53		
24	外部診断機4	外部診断機の取扱い4	54		
25	販売店スタッフとして1	プロのエンジニアとしての基本動作	55		
26	販売店スタッフとして2	トヨタ販売店のルール	56		
27	販売店スタッフとして3	販売店店舗での立ち居振る舞い	57		
28	習得状況の確認 1	擬似顧客車両1を用いて受付～作業	58		
29	習得状況の確認 2	擬似顧客車両1を用いて作業	59		
30	習得状況の確認 3	擬似顧客車両1を用いて作業～引渡し	60		

授業外学習	4時限分の授業レポートをまとめるために、1～2時間かかりこれが1日の復習となる。
教科書	プリウス、アクアの各電子技術マニュアル、取扱い説明書
教材	GTS、VIM、HV車(プリウス30、40、55、アクア)、オールドレール、タイヤチェンジャー、ホイールバランス機、洗車道具一式
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 試験は、実技試験があり、合格点は、100点満点の60点以上取らなければ、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には、再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験の点数が評価となる。

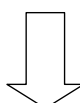
トヨタ東自大シラバス

修得目標と授業計画

学科名	ボデークラフト研究科	実務経験を有する教員による授業 ○	
科目名	卒業研究	分類	必修 選択必修 ・ 選択
履修時期	1年3学期	時限数	115 時限
担当者	トヨタ東京自動車大学校授業担当者名簿参照	時限数	学科: 1 時限 実習: 114 時限 1時限は、90分
授業内容	板金又は塗装において研究課題を設定し取り組む。		
修得目標	・研究課題を絞り込み研究課題を明確にする。 ・研究によって発生した問題点及び失敗点を考察し、得た知識・技術をまとめ発表が出来る。		

授業計画

時限	項目	内 容	時限	項目	内 容
1	卒業研究1	卒業研究の取り組みについて	91	卒業研究91	研究課題の作業87
2	卒業研究2	研究課題の設定1	92	卒業研究92	研究課題の作業88
3	卒業研究3	研究課題の設定2	93	卒業研究93	研究課題の作業89
4	卒業研究4	研究課題の設定3	94	卒業研究94	研究課題の作業90
5	卒業研究5	研究課題の作業1	95	卒業研究95	研究課題の作業91
6	卒業研究6	研究課題の作業2	96	卒業研究96	研究課題の作業92
7	卒業研究7	研究課題の作業3	97	卒業研究97	研究課題の作業93
8	卒業研究8	研究課題の作業4	98	卒業研究98	研究課題の作業94
9	卒業研究9	研究課題の作業5	99	卒業研究99	研究課題の作業95
10	卒業研究10	研究課題の作業6	100	卒業研究100	研究課題の作業96
11	卒業研究11	研究課題の作業7	101	卒業研究101	研究課題の作業97
12	卒業研究12	研究課題の作業8	102	卒業研究102	研究課題の作業98
13	卒業研究13	研究課題の作業9	103	卒業研究103	研究課題の作業99
14	卒業研究14	研究課題の作業10	104	卒業研究104	研究課題の作業100
15	卒業研究15	研究課題の作業11	105	卒業研究105	研究課題の作業101
16	卒業研究16	研究課題の作業12	106	卒業研究106	まとめ
17	卒業研究17	研究課題の作業13	107	卒業研究107	まとめ
			108	卒業研究108	まとめ
			109	卒業研究109	まとめ
			110	卒業研究110	まとめ
			111	卒業研究111	まとめ
			112	卒業研究112	まとめ
			113	卒業研究113	まとめ
84	卒業研究84	研究課題の作業80	114	卒業研究114	研究発表1
85	卒業研究85	研究課題の作業81	115	卒業研究115	研究発表2
86	卒業研究86	研究課題の作業82			
87	卒業研究87	研究課題の作業83			
88	卒業研究88	研究課題の作業84			
89	卒業研究89	研究課題の作業85			
90	卒業研究90	研究課題の作業86			



授業外学習	研究レポートの作成に1～2時間のかかり、これが1日の復習となる。
教科書	・車体整備 ・ペイントテキスト、ペイントビジュアルマニュアル ・ボデー&ペイントテキストボデー編
教材	スプレーガン、塗装練習用パネル、ポリッシャー、計量器、その他(塗料、研磨材、マスキング材、磨き材)、溶接機
成績評価の方法と基準	授業は、すべての時間出席しなければならない。また、遅刻早退、欠席した場合は補講を受講しなければならない。 授業レポートを提出しなければ、試験を受験出来ない。 評価は、発表を実技試験とし、合格点は、100点満点中の60点以上取らなければ、卒業は出来ない。 不合格者または、未受験者には再試験、追試験制度もある。 総合評価は、実技試験と平常点が評価となる。平常点は、レポート30点、出席10点、行動10点とし点数で評価する。